

●平成18年 第2回定例会 平成18年06月13日

○副議長（小幡正雄君） 次に、高橋正治君。

〔高橋正治君登壇、拍手〕

◆（高橋正治君） 私は、公明党横浜市議員団を代表し、将来の横浜の福祉について、サミット誘致について、映像文化都市づくりについて、繁華街安心カメラ設置事業について、市内中小企業の活性化について、ライフサイエンス都市横浜の推進について、新たな公共交通システムについて、そして教育ビジョンについて中田市長並びに押尾教育長にお伺いいたします。

<略>

次に、危機管理に必要な情報はさまざまな形態で収集されます。市民からの通報は、119番通報であれ、アマチュア無線家からであれ、音声による情報であります。また、消防などで音声に加え文字情報も使用されております。しかし、安心カメラの画像情報を活用すれば、現状をさらに正確に伝えることが可能であると考えます。その一方で、画像情報は情報量が多い分、高速大容量のインフラが必要になります。

そこで、音声や文字情報に加え、画像、そして消防車がどこを走っているかといった位置情報等々、危機管理に必要な情報を効果的に収集していくための今後のインフラ整備について市長の御見解をお伺いいたします。

また、危機管理は、本市の総力を上げての取り組みと、警察や自衛隊、あるいは医療機関などとの連携が不可欠であります。こうしたことから、収集した情報はまず本市として最大限に活用していくとともに、危機管理に当たる多くの機関が瞬時に共有していく必要があるわけですが、そうした情報提供のための今後のインフラ整備、ネットワークづくりについての御見解をお伺いいたします。

<略>

○副議長（小幡正雄君） 中田市長。

〔市長 中田宏君登壇〕

◎市長（中田宏君） 高橋議員にお答えを申し上げます。

<略>

次に、危機管理に必要な情報を効果的に収集していくためのインフラ整備についてでありますけれども、御指摘のとおり、映像情報は非常に重要であると認識をしています。このために、現在の災害監視カメラやヘリコプターからの映像情報に加えまして、非常事態においては安心カメラの映像もあわせて利用していくこととしています。しかしながら、市域全体をカバーするというのはできるわけではない。なかなか十分とは言えませんので、消防車からの映像伝送や車両の位置情報など、必要なインフラについては今後整備を進めていくということもしなければいけないと考えています。

関係機関に対する情報提供についてでありますけれども、特に地震災害やテロ災害などに際しましては、多くの機関が有機的に連携をして、その総合力を最大限に発揮するということが極めて重要なことであると考えています。そのために、事態を正確に把握するための映像情報であるとか、緊急対応部隊の連携に不可欠な位置情報などを関係する多くの機関が共有できるように、より高度なネットワークの構築が必要ではないかと考えます。今後、そういう意味では警察や災害医療拠点病院など関係機関との調整も進めて、順次整備をいたしてまいりたいと思います。

<略>